

カテゴリー	番号	本学における科目名	科目に含まれる事項	各回の授業タイトル	含まれるキーワード				
基礎科目	1	公認心理師の職責	①公認心理師の役割	A 公認心理師の役割	公認心理師法 心理的アセスメント 心理学的支援 関係者への支援 心の健康教育				
			②公認心理師の法的義務及び倫理	A 公認心理師の法的義務	公認心理師法の成立の経緯と趣旨 名称独占資格と 業務独占資格 信用失墜の禁止 秘密保持義務 関 係者との連携 主治医の指示 資質向上の責務 守 秘義務 連携義務 通報義務				
				B 公認心理師の倫理(1)					
				C 公認心理師の倫理(2)					
			③心理に関する支援を要する者等の 安全の確保	A 心理に関する支援を要する者等の安全の 確保	安全の確保 支援を要する者中心の立場 人権と尊 厳への敬意 自己決定権				
			④情報の適切な取扱い	A 情報の適切な取扱い	秘密保持 個人情報保護法 情報共有				
			⑤保健医療、福祉、教育その他の 分野における公認心理師の具体的 な業務	A 保健医療分野の業務	保健医療分野における公認心理師の具体的な業務				
				B 福祉分野の業務	福祉分野における公認心理師の具体的な業務				
				C 教育分野の業務	教育分野における公認心理師の具体的な業務				
				D 司法分野の業務	司法分野における公認心理師の具体的な業務				
				E 産業分野の業務	産業分野における公認心理師の具体的な業務				
⑥自己課題発見・解決能力	A 自己課題発見・解決能力	自己課題発見能力 課題解決能力							
⑦生涯学習への準備	A 生涯学習と自己研鑽	大学における養成カリキュラムと学び 大学院におけ る養成カリキュラムと学び 国家試験 生涯学習 自							
⑧他職種連携及び地域連携	A 多職種連携、地域連携、チームとしての 活動	多職種連携 チームアプローチ チーム医療 チーム 学校 地域連携							
基礎科目	2	心理学概論	①心理学の成り立ち	A オリエンテーション	勉強の仕方				
				B 心理学の歴史と研究法	歴史・観察・実験・調査・面接				
				C 人間の心の理解を深める	心理学の考え方				
			②人の心の基本的な仕組み及び働 き	A 「私の歴史」を振り返る作業	ライフヒストリー・内省				
				B 感覚と知覚	視覚・聴覚				
				C 注意と思考	意識・認知				
				D 学習と記憶	短期記憶・長期記憶・ワーキングメモリ				
				E 記憶・実験	実験				
				F 動機づけと情動	感情・動機づけ理論				
				G 言語	言語理解・文脈				
				H 発達(1)	乳児期・幼児期・児童青年期				
				I 発達(2)	成人・老年期・死について				
				J パーソナリティ	定義・パーソナリティ理論				
				K 社会的認知	社会・文化・グループダイナミクス				
				L 心理臨床	臨床実践・学校臨床・福祉・障がい				
				基礎科目	3	<2018年度>臨床心理学 I(臨床 心理学概論)<2019年度以降>臨 床心理学概論	①臨床心理学の成り立ち	A ガイダンス	臨床心理学概論の学び
								B 臨床心理学とは何か	臨床心理学の研究法
								C 臨床心理学の歴史	臨床心理学の歴史
								D 臨床心理士・公認心理師の活動領域	公認心理師の活動領域
②臨床心理学の代表的な理論	A 心理アセスメント・知能検査(1)	ビネー式知能検査							
	B 心理アセスメント・知能検査(2)	ウェクスラー式知能検査							
	C 心理アセスメント・人格検査(1)	質問紙法人格検査 作業法人格検査							
	D 心理アセスメント・人格検査(2)	投影法人格検査							
	E 異常心理学(1)	正常と異常							
	F 異常心理学(2)	精神障害の分類(1)							
	G 異常心理学(3)	精神障害の分類(2)							
	H カウンセリングの基本的問題	カウンセリングの学び							
	I カウンセリングの基本的技術	カウンセリング技術の習得							
J カウンセリングの理論(1)	フロイト理論 ユング理論								
K カウンセリングの理論(2)	ロジャース理論 認知行動療法								

カテゴリー	番号	本学における科目名	科目に含まれる事項	各回の授業タイトル	含まれるキーワード				
基礎科目	4☆	心理学研究法	①心理学における実証的研究法(量的研及び質的研究)	A 私たちはこころの何を知っているのか	こころの働きを測定する 心理学を正しく理解する				
				B 「科学的にこころをとらえる」とは	科学的説明 実証と反証				
				C こころを科学する2つのアプローチ	実験的研究 観察的研究				
				D 実験法(1)	独立変数の操作				
				E 実験法(2)	従属変数の測定				
				F 実験法(3)	剰余変数の検討				
				G 調査法	調査票の作成 サンプリング				
				H 観察法	自然・実験観察法 観察の信頼性				
				I 面接法	調査的・心理臨床的面接法 面接の構造化 面接者のバイアス				
				J 検査法	標準化 信頼性と妥当性				
				②データを用いた実証的な思考方法	A 実験的研究を読み解く	因果の方向性 統計的検定 仮説検証			
					B 観察的研究を読み解く	探索的研究 仮説検証			
C こころの研究をデザインする(1)	概念の手続き化 数量化 仮説生成								
③研究における倫理	A こころの研究の実際と注意点	倫理原則・規程 倫理審査 コンプライアンス							
	B こころの研究をデザインする(2)	再現可能性 ねつ造・改ざん・盗用							
基礎科目	5☆	<2018年度>心理統計学 I(心理学統計法)<2019年度以降>心理学統計法	①心理学で用いられる統計手法	A 心理学における統計解析の役割	心理学研究と統計データ 証拠に基づく判断				
				B 変数のタイプ分類とその分析の視点	量的変数 質的変数 度数 分布				
				C 質的変数の分析	クロス集計表 比率 連関				
				D 量的変数の分析(1)	度数分布 ヒストグラム 代表値 平均 中央値 最頻				
				E 量的変数の分析(2)	散布度 分散 標準偏差 標準化				
				F 量的変数の条件間比較	グラフによる比較 効果量				
				G 量的変数間の関係(1)	散布図 相関係数				
				H 量的変数間の関係(2)	相関の解釈における留意点 相関関係と因果関係				
				I 推測統計の考え方	点推定 区間推定 検定 帰無仮説 対立仮説 有意水準				
				J 統計的検定	t検定 $\chi^2$ 乗検定 相関の検定				
				K 実験計画と分散分析(1)	要因 水準 1要因分散分析				
				L 実験計画と分散分析(2)	2要因分散分析 主効果 交互作用				
				②統計に関する基礎的な知識	A 統計分析の基礎	統計データの種類と収集方法 母集団 標本 標本抽			
					B 確率と確率分布	確率の考え方 確率変数 確率分布 正規分布			
					C PCIによる統計解析	統計処理ソフトウェアの使用			
				基礎科目	6	<2018年度>心理学基礎実験 A(心理学実験)<2019年度以降>心理学実験A	①実験の計画立案	A 心理学実験の倫理・レポートの書き方	レポートの構成・科学的文体・引用・レポートの剽窃・盗用・実験上の倫理的諸問題
								B 実験法:錯視(1)	Müller-Lyerの錯視:主観的等価点
C 実験法:錯視(2)	被験者調整法・錯視量								
D 実験法:記憶(1)	記憶の処理水準:クレイクとタルヴィングパラダイム								
E 実験法:記憶(2)	短期・長期記憶 作業記憶								
F 実験法:反応時間(1)	視覚探索課題/ストループ効果:注意の資源/自動								
G 実験法:反応時間(2)	2重過程説, グラフ・表の構成, 可視化								
H 質問紙法:態度測定(1)	態度測定・尺度水準・カテゴリー尺度								
I 質問紙法:態度測定(2)	信頼性								
J 質問紙法:性格検査(1)	性格検査・質問紙の作成上の注意								
K 質問紙法:性格検査(2)	因子分析・信頼性・ワーディング・反応バイアス								
L 検査法・観察法(1)	知能検査:教示訓練・集団検査								
M 検査法・観察法(2)	因子分析								
N 検査法・観察法(3)	グラフ・表の構成, 可視化								
②統計に関する基礎的な知識	A 統計手法と科学的表記法	統計パッケージの利用・グラフ・表の構成・可視化							
基礎心理学	7☆	<2018年度>認知心理学(知覚・認知心理学)<2019年度以降>知	①人の感覚・知覚等の機序及びその障害					A 感覚と知覚	感覚モダリティ 閾 順応
				B 視覚	錯視 空間知覚 運動知覚				

カテゴリー	番号	本学における科目名	科目に含まれる事項	各回の授業タイトル	含まれるキーワード
		覚・認知心理学		C 注意 D 感覚・知覚の障害	注意のモデル 注意の制御 色覚多様性 失認
			②人の認知・思考等の機序及びその障害	A ささまざまな記憶 B 短期記憶、ワーキングメモリーと認知の制 C 日常生活、実社会の中での記憶現象 D 知識の構造 E イメージと空間情報の処理 F 推論と思考のバイアス G 判断と意思決定 H 認知の二重性 I 潜在認知、感情と認知 J 認知の個人差と障害 K 認知心理学の歴史と方法	感覚記憶 記憶の二重貯蔵庫モデル 宣言記憶と手続き記憶 エピソード記憶と意味記憶 短期記憶 ワーキングメモリー 自伝的記憶、目撃証言、虚偽の記憶 知識表象 活性化拡散理論 スキーマ スクリプト 心的表象 心的回転 イメージ走査 心的イメージ 思考のバイアス ヒューリスティックス 意思決定 フレーミング効果 プロスペクト理論 二重過程理論 システムI システムII 意識 無意識 潜在記憶 感情の認知への影響 認知の個人差 認知の障害 二重乖離 発達障害 認知革命 情報処理パラダイム 並列分散処理モデル 認知心理学の広がり
基礎心理学	8	学習・言語心理学	①人の行動が変化する過程	A イントロダクション:経験と行動・言語と行 B 生得性行動(行動の分類, 随伴性と条件づけ, 生得性行動の種類, 馴化と鋭敏化) C 試行錯誤学習 D レスポンデント(古典的)条件づけ E オペラント(道具的)条件づけ(1) F オペラント(道具的)条件づけ(2) G 観察学習 H 洞察と思考	経験 行動の変容 適応と制約 生得性 随伴性 反射 刻印づけ 馴化 ソーンダイク 試行錯誤学習 効果の法則 パヴロフ ワトソン 無条件・条件(レスポンデント)刺激 無条件・条件反応(無条件・条件レスポンデント)恐怖の条件づけ スキナー スキナーボックス オペラント 強化 罰 強化子 反応形成 般化と分化 強化スケジュール 弁別刺激 般化勾配 消去 ハンプリーズ効果 バンデューラ モデリング 代理性強化 ケーラー 洞察 ゲシュタルト心理学 構え 機能的固
			②言語の習得における機序	A 言語と心理学:環境としての言語 B 言語習得の基礎 C 言語能力の発達 D 日本語情報処理の心理学 E まとめ:再び経験と行動・言語と行動を考 F 感情と認知(2) G 感情と行動(1) H 感情と行動(2)	スキナー マンドとタクト 言語の恣意性 サピア・ウォーフ仮説 チョムスキー LAD 言語の象徴機能 発達の最近接領域 マザリーズ ブーバ・キキ効果 ソシュール 能記と所記 プロソディ 内言と外言 漢字・仮名 表記形態 形態処理 音韻処理 意味処理 表記の親近性 スキーマ 顕在記憶と潜在記憶 言語と思考 解釈・推論 感情制御, バイオフィードバック, マインドフルネス 視点取得・対人関係・援助
			③人格の概念及び形成過程	A パーソナリティとは B パーソナリティの測定 C パーソナリティの形成過程(1) D パーソナリティの形成過程(2) E パーソナリティの形成過程(3)	人格の個人差 質問紙法・面接法・観察法 知能・人格の個人差の遺伝的要因 知能・人格の個人差の環境的要因 人格の変容・発達
			④人格の類型、特性等	A 類型論と特性論(1) B 類型論と特性論(2)	類型論・特性論・因子論 神経症傾向・外向性・開放性・協調性・誠実性
基礎心理学	9	<2018年度>人格心理学(感情・人格心理学)<2019年度以降>感情・人格心理学	①感情に関する理論及び感情喚起の機序	A 感情とは B 感情喚起の機序 C 感情の測定 D パーソナリティと感情	感情経験・生理反応・感情表出 末梢起源説・中枢起源説・二要因説 質問紙法 生理学的測定法 パーソナリティの個人差と感情

カテゴリー	番号	本学における科目名	科目に含まれる事項	各回の授業タイトル	含まれるキーワード
			②感情が行動に及ぼす影響	A 感情と認知(1)	記憶・気分一致効果
				B 感情と認知(2)	解釈・推論
				C 感情と行動(1)	感情制御、バイオフィードバック、マインドフルネス
				D 感情と行動(2)	視点取得・対人関係・援助
			③人格の概念及び形成過程	A パーソナリティとは	人格の個人差
				B パーソナリティの測定	質問紙法・面接法・観察法
				C パーソナリティの形成過程(1)	知能・人格の個人差の遺伝的要因
				D パーソナリティの形成過程(2)	知能・人格の個人差の環境的要因
				E パーソナリティの形成過程(3)	人格の変容・発達
			④人格の類型、特性等	A 類型論と特性論(1)	類型論・特性論・因子論
				B 類型論と特性論(2)	神経症傾向・外向性・開放性・協調性・誠実性
				C 運動と認知機能	軽度の運動・背外側前頭前野
基礎心理学	10	<2018年度>脳と心(神経・生理心理学)<2019年度以降>神経・生理心理学	①脳神経系の構造及び機能	A オリエンテーション	脳全体の構造と働き(大脳、小脳、脳幹など)
				B 脳神経の構造及び機能	知覚神経・運動神経
				C 注意と印象形成	反応時間・アイトラッキング・系列位置効果・単純接触効果
				D 睡眠の構造と特徴	レム睡眠・ノンレム睡眠
				E 神経伝達物質と気分	セロトニン・ノルアドレナリンなど気分の変容に影響する神経伝達物質
				F 自律神経系及び中枢神経系	交感神経活動・副交感神経活動
				G 神経・生理心理学における非侵襲的測定法と評価	唾液中成分(アミラーゼ、コルチゾル、クロモグラニンなど)による心理的評価
				H 心電図・脈波及び精神性発汗の計測方法	心拍変動・皮膚電位反応
				I バイオフィードバック	心拍数・血圧
				J 脳を活性化させる方法	身体活動・聴覚・触覚から脳を刺激
			②記憶、感情等の生理学的反応の機序	A 記憶・感情等の生理学的反応の機序	扁桃体・海馬
				B 意志決定と脳機能	前頭葉機能
③高次脳機能障害の概要	C 運動と認知機能	軽度の運動・背外側前頭前野			
	A 高次脳機能障害の概要	実行機能			
基礎心理学	11	<2018年度>社会心理学 I (社会・集団・家族心理学)<2019年度以降>社会・集団・家族心理学	①対人関係並びに集団における人の意識及び行動についての心の過程	A 社会・集団・家族心理学概論	社会心理学 集団心理学 家族心理学
				B 社会的自己と発達	自己知識・自己概念
				C 社会的認知と対人認知	帰属と対人認知のメカニズム ステレオタイプと偏見
				D 感情と自己評価	自己知覚 自己評価・自尊心の維持 自己制御
				E 非言語的コミュニケーション	非言語コミュニケーション 表情
				F 社会的影響過程	同調 社会的アイデンティティ
				G リーダーシップ	集団内の地位とリーダーシップ
				H 社会神経科学	社会的認知における認知神経科学
				I メディアとインターネット	ネットワーク CMC
				J 群集心理	集合行動 群集心理
			②人の態度及び行動	A 説得と態度変容	態度の構造と変化
				B ジレンマ状況とゲーム理論	ゲーム理論 社会的ジレンマ
③家族、集団及び文化が個人に及ぼす影響	A 攻撃性と青少年犯罪	親子関係 青少年犯罪			
	B 恋愛と愛着	夫婦関係 人間関係の発達段階			
	C 文化と進化心理	遺伝的影響 相互構成的な文化的存在としての人間			
基礎心理学	12	<2018年度>発達心理学 I (発達心理学)<2019年度以降>発達心理学	①認知機能の発達及び感情・社会性の発達	A 新生児期の発達:知覚とコミュニケーション	原始反射、新生児微笑
				B 乳児期の知覚・身体的発達	分化、シエマ、同化と調節
				C 乳幼児期の認知機能の発達	ピアジェの認知発達
				D 乳幼児期の認知機能の発達感情と社会性の発達	親の養育態度、第1次反抗期

カテゴリー	番号	本学における科目名	科目に含まれる事項	各回の授業タイトル	含まれるキーワード			
			②自己と他者の関係の在り方と心理的発達	A 自己と他者の関係の在り方と心理的発達	心の理論			
			③誕生から死に至るまでの生涯における心身の発達	A 胎児期の発達: 胎内の成長過程	胎芽			
				B 児童期の身体の発達と仲間関係	ギャングエイジ			
				C 学校への適応と心の問題	いじめ			
				D 青年期の身体的変化と自尊感情の発達	第二次性徴期、第二次反抗期			
				E 青年期の身体的変化と自尊感情の発達 発達課題とアイデンティティ	自我同一性			
				F 中年期の発達	身体的、生理的機能の減退や喪失			
			④発達障害等非定型発達についての基礎的な知識及び考え方	A 発達障害と非定型発達	自閉スペクトラム、ADHD、LD 感覚過敏、二次障害			
			⑤高齢者の心理社会的課題及び必要な支援	A 高齢期の生物的加齢	正常加齢と病的加齢			
				B 高齢期の心理的加齢	主観的幸福感			
				C 高齢期の心理と社会関係	生活空間、社会的性格			
			基礎心理学	13	<2018年度>発達臨床心理学(障害者・障害児心理学)<2019年度以降>障害者・障害児心理学	①身体障害、知的障害及び精神障害の概要	A 障害とは何か	障害の概念 歴史 統計 法律 施策等
B 身体障害	肢体 内臓 視聴覚 その他							
C 知的障害～その1	知能 知能検査 療育手帳							
D 重症心身障害	“相模原事件”他							
E 発達障害～その1	自閉症スペクトラム							
F 発達障害～その2	注意集中困難/多動性障害 学習障害							
G 精神障害～その1	統合失調症やうつ病							
H 精神障害～その2	その他の精神障害							
I あらためて障害について	障害観							
②障害者・障害児の心理社会的課題及び必要な支援	A 乳幼児期の課題～その1	出生前診断 遺伝カウンセリング 障害受容 不適切な養育						
	B 乳幼児期の課題～その2	母子保健、発達相談、療育指導						
	C 学校教育における課題	就学支援 特別支援教育						
	D 知的障害～その2	支援の実際						
	E 発達上で支援の必要なその他のこと	その他の述べておくべき障害等						
	F 社会的支援	合理的配慮 ユニバーサル・デザイン 就労支援 虐待防止						
	基礎心理学	14				<2018年度>心理アセスメント(心理的アセスメント)<2019年度以降>心理的アセスメント	①心理的アセスメントの目的及び倫理	A 心理的アセスメントとは何か
B アセスメントにおける倫理と観点								アセスメントと診断 倫理的配慮 主訴 生育歴 生活・家族歴
C あらためて心理アセスメントについて考え								評価とは何か 評価の視点
②心理的アセスメントの観点及び展開			A 心理学的異常と臨床心理学	DSMやICD				
			B アセスメントの展開	初回面接 アセスメントとトリートメントの相互性 ラポール 信頼性と妥当性				
			C システム論的アセスメント	家族 地域 円環性				
			D 創作事例によるアセスメント～その1	個人 面接 行動観察 心理検査 諸情報				
			E 創作事例によるアセスメント～その2	家族 地域				
			F アセスメントにもとづく処遇例	カウンセリング コンサルテーション				
③心理的アセスメントの方法(種類、成り立ち、特徴、意義及び限界)			A 面接法	構造的面接 非構造的面接 半構造的面接				
	B 観察法	自然的観察 実験的観察						
	C 検査法～その1	質問紙法 投影法 侵襲性						
	D 検査法～その2	知能・発達検査法						
	E 検査法～その3	作業検査法 その他の検査法						
④適切な記録及び報告	A アセスメントの記録と報告書	フィードバック 報告書の作成 記録票の保管						

カテゴリー	番号	本学における科目名	科目に含まれる事項	各回の授業タイトル	含まれるキーワード
基礎心理学	15	<2018年度>心理療法(心理学的支援法)<2019年度以降>心理学的支援法	①代表的な心理療法並びにカウンセリングの歴史、概念、意義、適応及び限界	A 心理療法の歴史	心理療法のモデル 医学モデル・教育モデル・自然発達モデル・
				B 心理療法における枠	時間 場所 料金の設定の意味・設定が成立しにくい場合の心理援助
				C 治療的人間関係	心理療法と現実・転移・転移についての考え方
				D ロジャーズの心理療法	治療者の態度・無条件の積極的関心・共感的理解・自己一致・
				E フロイト理論	心的外傷理論の変遷・意識と無意識・症状の形成・自由連想法
				F ユング、アドラーの理論	普遍的無意識・個人的無意識・言語連想検査・コンプレックス
				G ウィニコットの理論	偽りの自己・本当の自己・母子関係・乳幼児期の発達
				H 子どもの心理療法	プレイセラピー・事例
			②訪問による支援や地域支援の意	A 地域における心理療法の様々な形(1)	病院 学校 保健所 少年院
			③良好な人間関係を築くためのコミュニケーションの方法	A 心理療法における話の聞き方	学派による違い
				B 心理療法と言葉	心理療法と因果律・言葉による理解・非言語による理解・質問の仕方
				C 描画を使用した事例	非言語・描画・事例
			④プライバシーへの配慮	A 心理療法とは	適応及び限界 守秘義務 プライバシーへの配慮等の倫理
			⑤心理に関する支援を要する者の関係者に対する支援	A 地域における心理療法の様々な形(2)	サポートスタッフ等への支援・地域に必な支援
⑥心の健康教育	A ストレスと心の健康	良好なコミュニケーション・言葉のかけ方・質問の仕方			
実践心理学	16	<2018年度>医療心理学(健康・医療心理学)<2019年度以降>健康・医療心理学	①ストレスと心身の疾病との関係	A ストレスと心身疾患との関係	ストレス対処 ストレス性疾患
				②医療現場における心理社会的課題及び必要な支援	A ガイダンス
			B 患者の心理(1)		心理的危機としての病気
			C 患者の心理(2)		心理的危機への対処
			D 患者の心理(3)		手術症候群
			E 精神科領域(1)		入院精神科治療 統合失調症
			F 精神科領域(2)		外来精神科治療 強迫性障害
			G 心療内科領域		心身症 摂食障害
			H 小児科領域(1)		乳児期と幼児期の心理的問題
			I 小児科領域(2)		児童期と思春期の心理的問題
			J 小児科領域(3)		ダウン症育児教室 チーム医療
			K 内科領域		糖尿病患者への心理的援助
			L 外科領域		外科臨床における心理的援助
			③保健活動が行われている現場における心理社会的課題及び必要な支援	A 保健活動に必要な心理的支援	高齢者支援 自殺予防
④災害時等に必要な心理に関する支援	A 災害時に必要な心理的支援	被災者支援 こころのケア			
実践心理学	17	福祉心理学	①福祉現場において生じる問題及びその背景	A 臨床心理学における福祉分野の実際	幸せ “社会的弱者”といわれる人たち 対人援助
				B 福祉分野の諸課題と現代社会	健康で文化的な生活 貧困
				C 臨床心理学的地域援助	コミュニティ心理学
				D 福祉分野の心理学についての補足	現場における心理学 他職種との連携
			②福祉現場における心理社会的課題及び必要な支援	A 家庭養護と社会的養護	社会福祉施設 里親制度 後見人制度
				B 児童の健全育成の視点	適切に守られる 適切に育てられる
				C DVとストーカー対策	防止法 保護命令 “後遺症”といわれるもの
				D 障害者福祉臨床	手帳制度 虐待 生活・就労支援
				E 貧困家庭の子どもへの援助	生活保護 修学支援 “子ども食堂”等の試み
				F 非社会的、反社会的な子どもへのアプ	家庭や地域の背景 発達心理学的要因 生きにくさ

カテゴリー	番号	本学における科目名	科目に含まれる事項	各回の授業タイトル	含まれるキーワード
			③虐待及び認知症についての基本的知識	G 児童虐待における心理と家族支援 A 児童虐待防止に関する法律や制度 B 児童虐待の実態や原因 C 児童虐待の通告や対応 D 高齢者福祉臨床	被虐待児と虐待する保護者 子育て支援 児童虐待の防止等に関する法律 児童虐待の定義や認定等 統計 児童虐待防止と家族支援 国民の通告義務とさまざまな対応 認知症 虐待
実践心理学	18	<2018年度>学校臨床心理学(教育・学校心理学)<2019年度以降>教育・学校心理学	①教育現場において生じる問題及びその背景  ②教育現場における心理社会的課題及び必要な支援	A 学校とはどんなところか B いじめ(1) C いじめ(2) D 不登校(1) E 不登校(2) F 非行・校内暴力 G 家族が抱える問題 A 子どもの発達課題 B 学習意欲・集団の力動 C 学力・知能のアセスメント D 発達障害・学習障害 E スクールカウンセリング(1) F スクールカウンセリング(2) G 地域社会との連携 H 学校における効果的な援助とは	教育に関する権利と義務 学校教育制度 いじめ 情報倫理 学級経営 不登校 不登校 非行・暴力行為 対人関係・環境面のアセスメント 学習・認知のメカニズムと教育 認知・言語の発達と教育 感情・社会行動の発達と教育 学習意欲 集団と学習 教授法の種類と特徴 学習の達成度の評価 学力・知能のアセスメント 特別支援教育 学習障害 学習支援 スクールカウンセリング 心の健康に関する情報提供 地域社会との連携 保護者・教職員・地域社会との連携
実践心理学	19☆	<2018年度>犯罪心理学(司法・犯罪心理学)<2019年度>司法・犯罪心理学	①犯罪・非行、犯罪被害及び家事事件についての基本的知識  ②司法・犯罪分野における問題に対して必要な心理に関する支援	A 犯罪・非行心理学を学ぶにあたって B 犯罪・非行研究の基礎理論 C 犯罪・非行の個別的要因(1)パーソナリティ要因 D 犯罪・非行の個別的要因(2)発達障害 E 非行と家族関係、及び家事事件 F 犯罪・非行と学校・職場・地域 G 犯罪捜査 H 犯罪被害者の精神的被害 I 補足事項について A 犯罪・非行の心理臨床の基礎 B 犯罪者・非行少年の処遇システム C 犯罪者・非行少年のアセスメント	犯罪心理学とは 矯正心理学 犯罪・非行の定義 犯罪・非行の研究方法 公的統計 犯罪白書 発達の視点と犯罪研究 性犯罪 犯罪・非行理論 刑事政策的理論 司法制度 社会学的理論 生物学的・心理学的理論 窃盗 パーソナリティ障害概念 シュナイダーの精神病質 犯罪・非行とパーソナリティ障害 境界性パーソナリティ障害 反社会性パーソナリティ障害 素行障害 サイコパシー 放火 自閉症スペクトラム障害 注意欠如・多動性障害 行動障害 発達障害と反社会的行動 二次障害 薬物 非行少年の家族の変遷 非行のピーク 虐待と非行 家族支援 審判事件 調停事件 女性犯罪 学校と非行 職場と犯罪・非行 地域と犯罪・非行 環境犯罪学 非行防止対策 殺人 犯罪者プロファイリング ポリグラフ検査 目撃証言 強盗・恐喝 犯罪被害者等基本法 PTSD 二次被害 犯罪被害者遺族 性犯罪に関する刑法改正 被害者相談 DV 個人情報と守秘義務 発達と非行・犯罪 犯罪行動を変化させるための治療 教育 治療教育プログラム 認知行動療法 精神分析療法 詐欺 裁判所 家庭裁判所 家庭裁判所調査官 保護観察所 児童相談所 少年法 ストーキング 少年鑑別所 少年審判と処遇の流れ 鑑別 観護処遇 バウムテスト 家族画 拘留所 交通犯罪

カテゴリー	番号	本学における科目名	科目に含まれる事項	各回の授業タイトル	含まれるキーワード
				D 犯罪・非行の治療教育	児童養護施設 児童自立支援施設 少年院 刑務所 法務技官 法務教官 刑務官 保護観察官 児童心理司 サイバー犯罪
				E 犯罪・非行の心理学の課題と展望	実証研究 施設内処遇の果たす役割 少年非行の防止対策 マスメディアと犯罪
				F 事例検討	性非行 アスペルガー障害 再非行 注意欠如・多動性障害 統合失調症
実践心理学	20	産業・組織心理学	①職場における問題に対する必要な心理に関する支援	A 組織と個人の関係性	産業構造、雇用形態
				B 働き方の多様性	在宅ワーク、個人事業主
				C 個人のキャリア形成とその支援	人材開発、キャリアカウンセリング
				D 人生と働き方と幸福感	ワークライフバランス
				E 職業適性	適性検査、キャリア・アンカー
				F 職場でのメンタルヘルス	メンタルヘルス、うつ病
				G 職場での様々な問題とその解決	ハラスメント、産業カウンセリング、ソーシャル・サポート
			②組織における人の行動	A 仕事のやる気 (1)	外発的モチベーション、内発的モチベーション
				B 仕事のやる気 (2)	目標設定理論、自己決定理論、ERG理論、欲求段階
				C 集団の意思決定 (1)	人事評価、認知バイアス
				D 集団の意思決定 (2)	集団極性化、同調
				E 集団のパフォーマンス (1)	グループダイナミクス、フリーライダー
				F 集団のパフォーマンス (2)	組織風土、スケープゴート
				G リーダーシップとマネジメント	特性理論、状況適応理論、PM理論
H リスク管理	コンプライアンス、ヒューマンエラー				
心理学関連科目	21	人体の構造と機能及び疾病目	①心身機能と身体構造及び様々な疾病や傷害	A 呼吸器の解剖・生理・症候・検査・治療①	呼吸器系の解剖と生理
				B 呼吸器の解剖・生理・症候・検査・治療②	呼吸器系の症候と検査
				C 循環器の解剖・生理・症候・検査・治療①	循環器の解剖・生理
				D 循環器の解剖・生理・症候・検査・治療②	循環器の症候・検査
				E 消化器の解剖・生理・症候・検査・治療①	消化器系の解剖・生理
				F 消化器の解剖・生理・症候・検査・治療②	消化器系の症候・検査
				G 代謝・栄養の解剖・生理・症候・検査・治療	代謝・栄養の解剖・生理
				H 代謝・栄養の解剖・生理・症候・検査・治療	代謝・栄養の症候・検査
			②がん、難病等の心理に関する支援が必要な主な疾病	A 進行癌の内科的治療①	個別的治療
				B 進行癌の内科的治療②	集学的治療
				C 胃癌・大腸癌の内科的治療①	化学療法
				D 胃癌・大腸癌の内科的治療②	集学的治療
				E 癌の免疫療法①	免疫療法の仕組み
				F 癌の免疫療法②	免疫療法の実際
G 放射線治療	治療の実際				
心理学関連科目	22	<2018年度>精神病理学(精神疾患とその治療)<2019年度以降>精神疾患とその治療	①精神疾患総論(代表的な精神疾患についての成因、症状、診断法、治療法、経過、本人や家族への支援を含む)	A 精神医学総論(1)	臨床診断 診断基準 その他
				B 精神医学総論(2)	治療 支援 その他
				C 統合失調症(1)	成因 症状 経過
				D 統合失調症(2)	診断法 治療法 支援
				E 気分障害(1)	成因 症状 経過
				F 気分障害(2)	診断法 治療法 支援
				G 神経性障害(1)	成因 症状 経過
				H 神経性障害(2)	診断法 治療法 支援
				I 器質性精神疾患(1)	成因 症状 経過
				J 器質性精神疾患(2)	診断法 治療法 支援

カテゴリー	番号	本学における科目名	科目に含まれる事項	各回の授業タイトル	含まれるキーワード
				K 精神作用物質の使用による精神及び行動の障害	成因 症状 経過 診断法 治療法 支援
			②向精神薬をはじめとする薬剤による心身の変化	A 薬物療法総論 B 向精神薬をはじめとする薬剤による心身の変化	向精神薬 その他 作用 副作用
			③医療機関との連携	A 医療機関との連携(1) B 医療機関との連携(2)	様々な連携 その他 心理師 その他
心理学関連科目	23	関係行政論	①法体系と公認心理師の理解	A 関係する法律の全体像 B 公認心理師の職責 C 公認心理師の倫理	心の専門家に関わる法律 憲法 法体系 公認心理師法 名称独占 面接契約 インフォームドコンセント
			②保健医療分野に関係する制度	A 医療分野における法律と制度(1) B 医療分野における法律と制度(2)	医療法 医師法 保健師助産師看護師法 医療関係職種と法律
			③福祉分野に関係する制度	A 福祉分野における法律と制度(1) B 福祉分野における法律と制度(2) C 福祉分野における法律と制度(3)	児童福祉 児童虐待 子育て支援 子どもの貧困 障害児 障害者 発達障害 高齢者 地域包括ケアシステム 認知症への取り組み
			④教育分野に関係する制度	A 教育分野における法律と制度(1) B 教育分野における法律と制度(2)	学校教育 学校教職員について 子どもを守るための法律
			⑤司法・犯罪分野に関係する制度	A 司法・犯罪分野における法律と制度(1) B 司法・犯罪分野における法律と制度(2)	少年非行とその処遇 触法精神障害者に対する対応 PTSDと犯罪被害者支援 DV
			⑥産業・労働分野に関係する制度	A 産業・労働分野における法律と制度(1) B 産業・労働分野における法律と制度(2)	労働と法律 職場のメンタルヘルス 過重労働対策 ストレスチェック 職場のハラスメント
演習	24	<2018年度>臨床心理学専門ゼミA(心理演習)<2019年度以降>心理演習	知識及び技能の基本的な水準の修得を目的とし、次に掲げる事項について、具体的な場面を想定した役割演技(ロールプレイング)を行い、事例検討で取り上げる。(ア)心理に関する支援を要する者等に関する以下の知識及び技能の修得 <1>コミュニケーション<2>心理検査<3>心理面接<4>地域支援 等 (イ)心理に関する支援を要する者等の理解とニーズの把握及び支援計画の作成 (ウ)心理に関する支援を要する者等の現実生活を視野に入れたチームアプローチ (エ)他職種連携及び地域連携 (オ)公認心理師としての職業倫理及び法的義務への理解	A 心理に関する支援を要する者等に関する以下の知識及び技能の修得…コミュニケーション、心理検査、心理面接、地域支援 B 公認心理師としての職業倫理の理解 C 公認心理師としての法的義務の理解 D 多職種連携及び地域連携の心得 E 心理に関する支援を要する者等の現実生活を視野に入れたチームアプローチ F 心理に関する支援を要する者等の理解と対象者のニーズの把握 G 支援計画の作成(1) H 支援計画の作成(2) I 知識及び技能の習得(1) J 知識及び技能の習得(2) K 知識及び技能の習得(3) L 知識及び技能の習得(4) M 知識及び技能の習得(5) N 知識及び技能の習得(6) O 知識及び技能の習得(7)	ロールプレイング コミュニケーション技術の理解 心理検査の実際 心理面接の実際、地域支援のチームアプローチの理解 職業倫理の理解 法的義務の理解 多職種連携の心得 地域連携の心得 チームアプローチの心得 支援を要する者の心理 対象者のニーズの把握 対象者のアセスメント 対象者を取り巻く環境についてのアセスメント コミュニケーション技術の理解 心理検査の実際(1) 心理検査の実際(2) 心理面接のロールプレイング(1) 心理面接のロールプレイング(2) 心理面接のロールプレイング(3) 心理面接のロールプレイング(4)

京都先端科学大学における公認心理師カリキュラム・シラバス一覧

カテゴリー	番号	本学における科目名	科目に含まれる事項	各回の授業タイトル	含まれるキーワード
実習	25	心理実習	保健医療、福祉、教育、司法・犯罪、産業・労働の5つの分野の施設において、見学等による実習を行いながら、当該施設の実習指導者又は教員による指導を受ける。(ただし、経過措置として当分の間は、医療機関での実習を必須とし、医療機関以外の施設での実習については適宜行う。)(ア)心理に関する支援を要する者へのチームアプローチ (イ)他職種連携及び地域連携 (ウ)公認心理師としての職業倫理及び法的義務への理解	A 保健医療分野と、福祉、教育、司法・犯罪、産業・労働の4分野のうちいくつかの分野の見学等による実習を、計80時間以上にわたって実施する	病院やクリニックでの心理支援、児童養護施設や子ども心療施設、教育センターや適応指導教室、療育教室、その他での子どもや保護者への心理支援、関係者との連携